季節の自然
ひとつまみ

崩壊地に生える天然カラマツ

2023年
11月の自然

カラマツは落葉松とも書き、黄金色に美しく黄葉する針葉樹です。長野県の標高の高いところでは、全面といっていいほどカラマツが植林されており、信州の人にとっては、なじみのある木ではないでしょうか。カラマツは本来、崩壊地などに真っ先に侵入してくるパイオニア植物のひとつで、南アルプスに晩秋に登ると、崩壊地に沿って帯状に色づいた天然のカラマツ林を見ることができます。これがカラマツという植物の本来の姿です。

南アルプスの斜面に帯状に生えた天然のカラマツ林（2071.10.26　双児山南東斜面　　左の写真は、その一部分の拡大）
斜面が蛇抜け状に崩壊したあと礫が安定すると、カラマツが一斉に発芽して帯状のカラマツ林が形成される。亜高山性針葉樹林の中で落葉松だけが黄葉するので、秋に遠望するとその様子がよくわかる。さらに安定して土壌が形成されると、コメツガ林に遷移していくことが多い。

黄葉したカラマツの葉（上）
人間の手で植林されたカラマツ林（下）